

□□□□□□

みんなのスペース

◆あて先・問い合わせ
〒028-1392 (住所不要) 山田町役場総務課情報係(☎82-3111内線417)へどうぞ。

やまだ文芸広場

仏より孫ひ孫集る盆休み

佐藤 兼男(荒川・87)

くどくどと言ひ訳がましき電話なり
他人行儀の言葉も悲し

来し方が無になりし如思わるゝ
短歌のノート津波に流さる

沢 まさ子(山田・?)

苦しみを楽しみに変え観自在

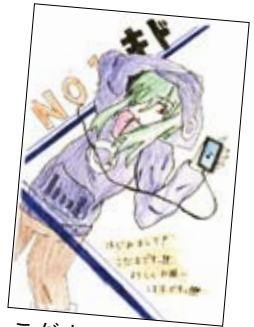
あわれみをもものに施す心より
ほかに仏の姿やはある

内館 洋一(飯岡・71)

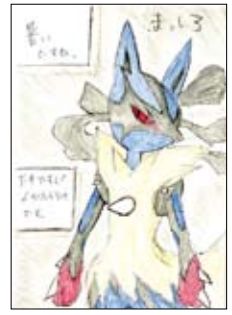
秋に咲く花は、桜を足して、秋桜。
青空と一笑に風に吹かれても
根を張って咲クカラ。

佐藤 啓子(船越・36)

イラストコーナー



こだま (飯岡・?)



まっしろ (長崎・14)



フィリップ☆ (長崎・18)



空 (織笠・?)



もず@エノモト (大浦・13)

投稿写真



大沢で短い夏を堪能しました
飯岡ずいき (飯岡・?)



花火大会を浦の浜から撮影
山の内弁当 (船越・?)

町長室から

先日、大杉神社のお神輿がみんなの想いにより息を吹き返した。荒神社でも新しいお神輿が祭りを盛り上げた。先人から受け継いできたお祭りの中心は、何と言つても神々しい光を放つお神輿である。岩手県のことを黄金の国という。平泉には、金色堂など黄金文化が花開いた▼黄金にはもう一つの意味がある。秋に稲穂がたわわに実る色が黄金色なのだ。神輿も金色に包まれ、ご神体を抱き町民の安寧を見て回る。一年の中のたった一日である。魚賀波間神社でも祭礼があり、震災の中に癒しをもたらしてくれた。それがお祭りであり、その中心に金色の神輿があるのである▼大杉神社の神輿をみていたら心の中に匂うものがある。お煮しめの匂いだ。本番までまだ早い、小さい時からの条件反射で神輿を見るとお煮しめの匂いがするのである。間もなく食べられる。これも楽しみの一つである。

山田町長 佐藤 信逸

ご当地カルタ できました



山田町子どもまちづくりクラブでは、町の魅力をカルタにした「山田町カルタ」を作りました。町内の事業所や団体において「子どもたちの集まる場所に置きたい」「お客さんに山田町カルタで町のことを知ってもらいたい」などの理由でカルタを希望する方にも付付しています。詳しくは、お問い合わせください。

※ただし、山田町カルタを売買する・商売の人集めに利用するといった営利目的での使用はできません。

▶山田町カルタの設置場所 ▶町健康福祉課（閲覧のみ）▶町中央公民館▶町立図書館▶山田町観光協会▶道の駅やまだ内観光案内所▶やまだ観光物産館とっと▶山田町ゾンタハウス▶駄菓子屋「まつり」（八幡町）——など

※上記で山田町カルタを見たい、遊びたいという方は、必ず事前に可能かどうかご確認ください（閲覧のみ、利用者のみ対象の場合があります）。

◆お問い合わせ 公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン（石田☎0198-68-3012）へどうぞ。

堤防が転ぶ①



毎日、海堤防を前にして、この堤防、いつの時代に——。

全く分かんなかった。よって、資料に昭和36年度とあり、前年の35年が地震のない津波であった。この津波で、岩手の死者61名と記録されている。なお当日は、入り漁場の初若布の開口口であった。漁民全員が春の生活に一番の大きな期待を期して来た若布の口開け。漁に出ることもならず、ただ海を見てるだけだった。その後、海があっても何の漁もできなく、一時生活に困窮している話もあり、今のよな制度もなかったようだった。そういった生活の中に、今度県の方で堤防を造るといふ噂が大

きく流れた。いいことした、今度津波が来ても大安心と、みんなそう思った。

祈願と伝統

山崎 卓三（大浦・?）
《次号へ続く》

7月12日・13日、旧船越村の村社・三陸一宮荒神社の夏祭りが、震災後の復興と浜の大漁、豊作を祈願し、賑々しく盛大に挙行されました。祭典は、先の大津波で流された神輿に代わる、日本財団より寄贈された新しい神輿のお披露目をも兼ねた海上渡御祭です。

この神輿と、辛うじて難を逃れた旧神輿を担ぐ120人ほどの威勢のいいワツシヨイ、ワツシヨイの掛け声が、黄金浜に響き渡ります。その掛け声を打ち消すかのように大神楽、虎舞、剣舞の笛、太鼓の拍子が鎮守の森に木霊します。神輿が漁船に乗ると海上渡御に移り、大海原へと乗り出します。地先地先に置く網の大漁を祈る祝詞奏上が宮司により捧げられ、神輿は船越湾を一周し、崇敬者の待つ山ノ内の岩壁にあがり、悪病を祓い繁栄を祈願。さらに田の浜に移動し、同地区の一日も早い復興と繁栄を祈願します。いよいよ、祭典のクライマックス。曳き船の解散が始まり、各船が我先にと先陣を切ります。御召船に近い船ほど大漁を授かることいった風習・伝統などもあり、各船速力を競い合い、船一杯に飾った大漁旗をなびかせるのです。雄大な伝統を崩さない、海の男の祭典、心意気でありましょう。そして、ようやく奥の宮に戻りし御魂、神静まりまして、世の中が穏やかであることを、神々にお祈りして祭事的一切を終了。めでたしめでたし。

西館 隆（船越・81）

蟬の脱皮

子どもころ、山畑で見つけてから忘れかけていた。

6月中旬ごろ、仮設の裏山で、栗の木の葉に、小さいセミの脱皮がしがみついていた。「あつ、セミの脱皮」だと、うれしさと喜びに大きい声が出て、感動の瞬間でした。

7月中旬すぎかな、朝方、ラジオを聞いていたら、セミの声。ラジオではないようだし、スイッチを切ったら、裏山からのセミの声でした。時間は、ほぼ4時ごろから鳴きはじめ、20分ぐらいかな。小雨降る朝も違和感無く聞こえて、雨にもお似合いのセミかな……。あの小さいぬけがらから、どのくらい大きくなって美声で鳴くのかな、またまた感動の朝方でした。

ときには、心のもやもやを自身でコントロールして、四季折々の風情に心よせるのもストレス解消につながると日々暮らしています。

菊地 サカエ（織笠・79）

